

令和元年度 学校関係者評価報告書

学校法人 食糧学院
東京栄養食糧専門学校

学校法人食糧学院 東京栄養食糧専門学校
学校関係者評価報告書

自己点検・自己評価実施委員会が作成した「令和元年度自己点検・自己評価報告書を基に学校関係者評価」を行いました。その結果を以下の通り報告いたします。

1.開催日時 令和2年2月28日(金) 17:00~19:00

2.開催場所 本館二階 会議室

3.委員 (1) 学校関係者評価委員

寺嶋 利行	一般社団法人 F L Aネットワーク協会	事務局長
渡辺 太郎	株式会社 マルダ	代表取締役
渡邊 智子	淑徳大学	教授
原田 治明	多摩大学	入試部長
山辺 重雄	東京栄養食糧専門学校	校長
柴田 邦子	東京栄養食糧専門学校	教育部 部長
船木 潤	東京栄養食糧専門学校	総務部 部長
鈴木 健一	東京栄養食糧専門学校	教育部 就職進路支援課 課長

(2) 事務局

篠原 文昭	東京栄養食糧専門学校	総務部 総務経理課主任 職業実践教育担当
宮村 禎子	東京栄養食糧専門学校	教育部 教務学生課 職業実践教育担当

4.会議の概要

- (1) 理事長挨拶
- (2) 校長挨拶
- (3) 議長選出
- (4) 「令和元年度自己点検・自己評価」報告書の説明と評価

令和元年度 学校関係者評価結果

(学校関係者評価委員会実施日：令和2年2月28日)

学校法人 食糧学院 東京栄養食糧専門学校

大項目	学校関係者評価
<p>基準1 教育理念 目的・育成人材像</p>	<p>本校は、「専門教育に誇りを持ち、社会から信頼される教育機関を目指すと共に社会から高い評価を得られる学術・技能に優れた人材の育成に努める」ことを教育の理念・目標に掲げ、社会に貢献できる栄養士・管理栄養士の育成に努めている。具体的には「栄養士・管理栄養士」が持つべく基本的スキルである調理技術や身体状況に見合う献立作成技術の習得、更には栄養指導、栄養教育に不可欠な他人を思いやる豊かな人間性の涵養を周知しており、社会のニーズに、より適応した実習・実験・演習を数多く取り入れたカリキュラム編成と将来を見据えた専門性を磨くため、栄養士・管理栄養士科共通にコース制を導入、選択コースの特色作りを実施している。</p>
<p>基準2 学校運営</p>	<p>年度当初に策定した事業計画・予算案に基づき、理事会や定例会議（学院センター管理職会議、本校運営会議・教職員会議等）において学校運営の進捗状況、課題（問題点）等を提起、報告・連絡・相談の徹底を図り、教職員全体が把握できるようにしている。またコミュニケーションをより密にすると同時に、学校運営に対する情報の共有化を推進している。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>専門実践専門課程に相応しいカリキュラムを作成するため、これからの高齢化社会における栄養士・管理栄養士のあるべき姿のイメージ像を描き、将来の「就職」も視野に企業・業界団体との連携を図り、企業等が求める人材ニーズを反映させたものとするを心掛けている。また社会人となったときに、コミュニケーション能力を活かせるよう、授業での少人数制グループワークで「全員参加型の教育」を実施、より具体的な栄養士・管理栄養士像が思い描けるよう、実社会での企業研修である校外実習・臨地実習に重点を置いている。</p>
<p>基準4 教育成果</p>	<p>全ての学生が高い満足度、充実した学校生活を感じて卒業すると共に、卒業生が社会で活躍し貢献することを期待している。授業評価（学生満足度）アンケートを実施し、その結果を教職員にフィードバックしている。管理栄養士科の国家試験対策の充実は、高い合格率に表れている。就職に関しては、担任、就職進路指導課および全教職員が一体となり、学生の夢を叶えるべく、支援体制を強化している。学生のニーズに合った就職先の開拓や、学生個人の適正を把握し、その適正に沿った就職先の斡旋により、多くの学生がその希望により栄養士・管理栄養士の資格を活かせる職域での就職を実現している。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>栄養士・管理栄養士を目指す意欲を喚起し、安心・安全を勉学に励むことが出来るよう支援体制ならびに施設環境を整えている。志半ばでの進路変更や経済的な理由で中途退学する学生がいるため、経済的支援としては、各種奨学金制度をはじめ本校独自の制度として「特待生制度」「教育後援会奨学金制度」「留学生校納金減免制度」を設けている。</p> <p>学生相談については、カウンセラー室を設けており、専任カウンセラーによるカウンセリングを必要とする学生への相談対応を行うなどきめ細やかな学生対応を実施している。</p> <p>基準5について以下の質問があった。</p> <p>①管理栄養士科14回生において、74名入学で卒業したのが49名とのこと。4年間高いモチベーションを継続させ資格受験をさせるのは大変だと思うが、どの時期にどのような理由で諦めていくのかを教えてください。</p> <p>②16名が全て回答①の理由であったのか。</p> <p>③入学前に基礎学習などをさせているのか。</p> <p>【回答】</p> <p>①入学の段階で学力に不安がある状態でも期待値を踏まえ入学をさせている。ただ、授業が始まると苦手な科目が生じ、それにより全体の勉強に身が入らなくなってしまい、そこで諦め栄養士科へと転科していく。</p> <p>②方向転換する学生や、勉強が負担になって辞める学生もいる。この学年は極端に多かった。A0で入学をしている学生の率が高かった。1年次は講義中心の専門基礎科目が多いので、面白い科目（専門科目）にたどり着く前に辞めてしまう。</p> <p>③A0での入学者には化学、生物の事前学習を3回行っているが、それだけでは不十分なので、今年度からは実験・実習をやるようにした。本校でも入試では「数学」と言っているが、求めているのは「算数（計算）」であると入学希望者には伝えている。また、試験問題もそのような問題にしている。授業の中でも小数、分数などの復習を取り入れながら進めている教科もある。A0で出願した学生で基礎学力に不安がある場合は、栄養士科からの学習を勧めることもある。</p> <p>【提案】</p> <p>担任制を敷いているのなら、それを明記するようになったほうがよい。この文面では伝わりにくい。</p>

<p>基準6 教育環境</p>	<p>常に充実した施設設備・環境のもと、最高水準の職業実践教育を授け学生の想い・夢・希望を叶えていきたい。校舎の老朽化は否めないが、各校舎の耐震化施工は全て実施済みであり、耐震工事に併せた外観リニューアル、80周年記念事業としての各校舎内装等のリニューアルにより、明るいキャンパスを実現している。防災（地震と火災）訓練を年2回実施し、防災に対する心構えや体制の整備を行っている。</p> <p>【提案】 机、イス、PCなどのリニューアルをしているのだから、そのことも明記しておいたほうがよい。</p>
<p>基準7 学生の募集と受入</p>	<p>栄養士・管理栄養士を目指す意欲ある学生は、是非伝統と歴史と実績のある本校で学んで頂きたい。そのためには、本校のアドミッションポリシーを理解し、真摯な態度で勉学に励むことを望むものである。一人でも多くのオープンキャンパス来校者に出願して頂けるよう、全教職員が魅力ある学校の情報発信に努め、自覚と責任をもって学生募集活動を行う必要がある。</p> <p>本校では入学希望者に学校を知ってもらうために、オープンキャンパス（OC＝学校説明会）を実施、①学校紹介、②ミニ授業体験、③施設見学、④個別相談等を行っている。参加者のリピート率も高くそれが出願に繋がっている。その他にも学校見学、授業見学等の随時実施している。また入試の形態も多様化している。学院センター広報企画室が関東一円をはじめ甲信越や東北地方での高校訪問や会場ガイダンスなどの広報活動を展開している。高校生から社会人までの様々な入学希望者に対し全教職員が“おもてなし”の気持ちをもって対応できる体制を整えている。</p> <p>基準7について以下の質問があった。</p> <p>①学生募集について。昨年より増とのことであるが、昨年と比較して増加した要因は学校としてはどう判断しているか。例えば、オープンキャンパスの参加者が増えたとか、オープンキャンパスの参加者の出願率が上がったなど傾向が分かれば教えてほしい。</p> <p>②管理栄養士科の希望者で、大学と併願する学生は多いのか。</p> <p>【回答】 ①オープンキャンパスの参加者は昨年とほぼ同じ。来場者の出願率が上がったのが要因である。参加者の満足度の向上がこの結果につながったと考えている。管理栄養士科でA0入試での出願が多かったことが今年の特徴であった。</p> <p>②多いです。また、オープンキャンパスで保護者の参加率が増えている。保護者は、「まずは大学」と考えている方が多い。その中で、オープンキャンパスに参加し、話を進めていくことで本校へ希望する方も多かった。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>無借金経営であり中期的な財務基盤は安定しているが、校舎等の老朽化により近い将来の立て直しの検討も必要となる。充実した教育目標に即した経営基盤の強化を達成するために、①定員の確保②退学率の低下に努めている。令和元年度の財務情報は、現在HPで公表中である。</p>
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>関係法規を基本とし、法令・設置基準等を遵守している。またISO14001に基づき環境保護等に配慮した教育を行っている。</p> <p>基準9について以下の質問があった。</p> <p>① ISOは教職員全員が理解していたほうが良いのは分かるが、研修などの体制はあるのか。</p> <p>【回答】 ①朝礼や教職員会議で考え方などを啓蒙している。</p> <p>【提案】 しっかりと理解してもらうためにも、時間を取って研修をしたほうがよい。知ってもらいたいのであれば、時間を設けて研修をしたほうがよいと思われる。</p>
<p>基準10 社会貢献</p>	<p>①エコ活動②職場環境③地域貢献④学生満足のテーマで取り組んでいる。公開講座としてスキルアップアカデミー講座、長寿健康ベターエイジング研究所主催の各種セミナー、講演会等を定期的実施している。引き続き「食と健康」の情報発信源として社会から高い評価が得られるよう、より一層の努力を継続していきたい。また国際交流も推進、教職員は、本校の教育資源を社会貢献や地域貢献に活用できるよう自覚を持って行動している。</p>